

平成25年1月4日（金）、長久手市仕事始め式が、市役所西庁舎研修室で職員約120人が参加して行われました。

その際の市長年頭あいさつを紹介します。

あけましておめでとうございます。
この年末年始、職員のみなさんはいかがお過ごしだったでしょうか。

私は、年始に市内に住むALS（筋委縮性側索硬化症）の方のところへお邪魔してきました。その方は、目の動きで文字を判別するものを使って「良いお正月です」とおっしゃっていた。市内にはALSの方が5～6人いらっ

しゃる。体も呼吸も意のままにならない。大変だと思います。

現在、本市からいわき市へ職員を1名派遣しています。来年度も1名を派遣する予定ですが、被災地のみなさんは、まだまだ大変です。

今まで日本の人口は増加してきましたが、今、人口が減り始めています。日本の人口は、平成23年には20万人、平成24年には21万人が減ったと報道されたところです。今までの日本は、山の頂上の1点を目指して、みんなが同じ目標で走ってきました。しかし、これからは、山を下りて行く時代です。山を下りて行くときは、ふもとに向かって360度、下りて行けるところがあります。そのふもとにはニーズがあります。住民と話をし、役所の悩み、困っていることも話すと、そこにニーズがあるはずで、本市の税収も次第に減っていきます。施設のメンテナンスも必要で、高齢者も増えていきます。医療費もどんどん増えています。どうしたら良いのか、みんなで考えていきましょう。

職員のみなさんには、山を下りるための足腰を鍛えてほしい。そのためには、次のことを実行してもらいたいと思います。

一つ目。まちへ、現場へ出てほしい。

これは福祉の話だけでなく、どこの部署も課題は現場にあるはずで、課題が見つかったら、市外の先進地に視察へ行き、受け身の仕事でなく、どんどん提案をしてほしい。日本にある市町村の違いは、そこで働く職員の提案力によって大きく違ってくると思います。

二つ目、職員同士が連携してほしい。

他課のやっていることを、職員が知らないようではいけないと思います。

三つ目、地域に情報、課題を発信してほしい。

市から情報を発信しても、その情報が地域に届いていないように思います。「広報紙に掲載したら終わり」ではなく、どうしたら市民のみなさんが情報を見てく



れるのか、どうしたら人が集まってくれるのか、どうやったら意見を出し合うことができるのか、市民のみなさんと一緒に考えていきたいと思ひます。

今年は、今までやってきた仕事を考え直し、職員の足腰を鍛える一年としたいと思ひます。「大きな何かをする」と掲げるのは、山を登っていた時代の話です。山を下りる時代は、みんなで考えていきたいと思ひます。

私自身、市長室で相談を受けたり、決裁をしたりするだけでなく、どんどんこちらから各課へ、現場に出かける1年にしたいと思ひています。

今年も一年、どうぞよろしくお願ひいたします。